

JABEE 農業工学関連分野における認定プログラムと修了生の動向 Trends in JABEE Accredited Programs and Graduates in Field for Agricultural Engineering

○藤崎 浩幸* 花塚 賀央**

○FUJISAKI Hiroyuki* HANATSUKA Yoshio**

1 農業農村工学会と JABEE¹⁾

農業農村工学会は JABEE 設立準備期から JABEE に参画してきている。1999 年 JABEE 設立に参画するため、JABEE 設立発起人に学会長を推薦し、学会内には担当理事を設け事務局体制を整備している。同年 11 月の JABEE 設立後は JABEE 正会員として「農業工学及び関連のエンジニアリング分野」を担っており、JABEE の理事や基準総合調整委員会委員、認定・審査調整委員会委員、拡大運営委員会委員として運営に参画してきている。学会内では 2000 年度に 2 件、2001 年度に 4 件の試行審査を実施した後、2002 年度から 2024 年度までに農業工学関連分野の 75 件の認定審査を実施し、「農業工学関連分野技術者教育プログラム認定審査調査委員会」を運営している。審査員は延べ 400 人を超え、農学系合同審査員研修会等の講師を務めた者も少なくない。JABEE がインドネシアにおける技術者教育認定機構の立上げを支援した際の 2014 年度にはボゴール農科大学の農業工学関連分野の認定審査も担った。

また農業農村工学会は 1999 年に設立された農業土木技術者継続教育機構運営にも深く関与し、農業土木技術者の養成から継続教育までの重要な役割を果たしている。

2 農業工学関連分野における JABEE 認定プログラムの状況

農業工学関連分野の JABEE 認定プログラムの推移を示したのが図 1 である。2002 年度に 2 プログラムが認定されて以降、認定プログラム数は増加し 2008 年度に 19 プログラム(17 教育機関)にまで増加した。しかし、2009 年度以降 2021 年度までに 5 プログラムが認定を辞退し 1 教育機関では 2 プログラムを 1 プログラムに統合した結果、2025 年度現在 13 プログラムとなっている。認定辞退の理由として認定メリットの乏しさ、受審の手間、改組対応が困難、審査費用捻出の困難さなどがあるとされている¹⁾。

3 農業工学関連分野における JABEE 認定プログラム修了生の状況

農業工学関連分野の JABEE 認定プログラム修了生数の推移を示したのが図 2 である。2002 年度には 2 プログラムにおいて 10 名が修了生となった後、認定プログラム数の増加に対応して修了生数は年々増加した。2005 年度には 207 人と 200 人を越え、2007 年度に 355 人と過去最多の修了生数となった。その後 2010 年度に 298 人と 300 人を下回った後は 2021 年度まで概ね 300 人を少し下回る人数で横這いであった。しかしデータが得られている直近の 2022 年度は 250 人、2023 年度は 231 人と 2 年度連続で減少している。

また図 2 にはプログラム当り修了生数も示した。2006 年度から 2014 年度までは 16.1 人から 19.7 人の間で推移した後、2015 年度から 2022 年度までは 19.9 人から 21.8 人の

* 弘前大学農学生命科学部 Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University

** (公社)農業農村工学会 The Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering

【キーワード】技術者教育/JABEE/修了生/技術士

間で推移した。その後 2022 年度に 19.2 人、2023 年度に 17.8 人と 2 年連続で減少した。

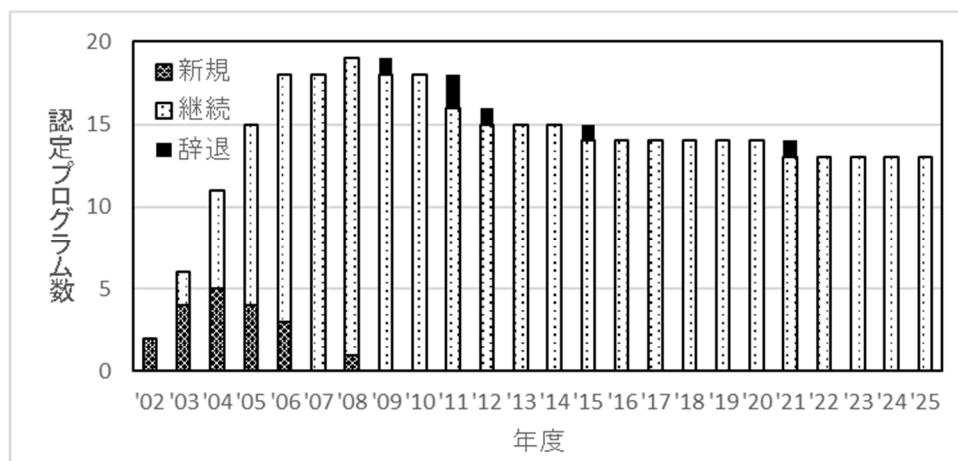
4 JABEE 修了生のその後

JABEE が公開する認定審査サマリーレポート³⁾では、2020 年度以降 JABEE 修了生の合格率は非 JABEE 受験者の合格率と同一水準であること、2024 年度の 20 代合格者の 44%、30 代合格者の 40 % が JABEE 修了者で若い技術士を生み出していると述べられている。

しかし、農業工学関連分野に限定すると、建設コンサルタントにおいて JABEE 修了生がそうでない採用者と比べて早期に技術士取得に至る²⁾という記載はあるものの、裏付けとなるデータは残念ながら得られていない。

5 おわりに

JABEE 認定プログラムでは、認定の条件となる教育の質保証と継続的な教育改善活動を通じ、それぞれのプログラム固有の特徴的な技術者教育が展開されている。そして、認定審査の過程では、受審側のみならず審査員にとっても新たな教育改善のヒントが得られる場にもなっている。こうした JABEE 教育プログラムを通じ、修了生の多くが農業土木・一般土木技術者として活躍し、農業農村の持続に有用な人材として成長し続けることが期待される。



*2011 年度の辞退 2 件のうち 1 件は 2 プログラムの統合

図 1 農業工学関連分野の認定プログラム数
Fig1 Number of Accredited Programs in Agricultural Engineering

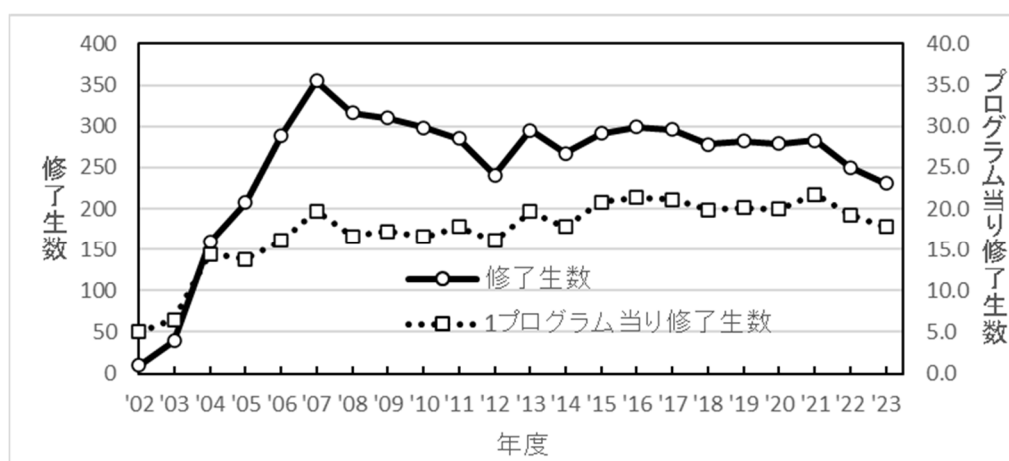


図 2 農業工学関連分野の JABEE 修了生数
Fig2 Number of JABEE-Program Graduates in Agricultural Engineering

引用文献 1)農業農村工学会技術者継続教育機構「JABEE と CPD-農業農村工学会の取組」水土の知 91-3(2023) 2)大村「技術者教育と日本技術者教育認定機構(JABEE)の課題と方策」水土の知 91-3(2023) 3)(一社)日本技術者教育認定機構「2024 年度認定審査サマリーレポート」<https://jabee.org/doc/summary2024r1.pdf> (参照 2025 年 5 月 9 日)